

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎



8月の銅の概況及び9月の見通し (3)

予想レンジ		
LMEセツル	9,500-10,500ドル	●
建 値	144万円-159万円	●
為 替	146円 ~148円	●
(1か月間TTM)		

■国内概況まとめ

◆伸銅品生産

2025年7月の伸銅品生産動向（速報値）によれば、5万8,750トン、前年同月比1.3%増加した。2か月連続のプラスとなった。また、2025年に入ってからのもっとも多い生産量となった。協会の報告にはなかったが、過去に遡ってデータを見直すと、5万8,000トンを超えたのは、2023年3月以来だった。4品目中10品目が前年同月実績を上回った。

伸銅品の需要先の概況によると、自動車生産に関して、昨年の認証不正問題以降、様々にあった減産から立ち直り、自動車向けコネクタが好調。

半導体向けは、日米のAI関連とデータセンター向けの需要が伸びている。また、車載向け半導体は、中国の日系自動車回復がプラスに働いた。ただ、まだ回復途上である。エアコンは、猛暑で増産傾向だが、国内生産の増加だけでなく、海外製輸入エアコンの台数も増加が見られる。銅管輸入も増えている。住宅新規着工は低迷が続く。

トランプ関税による米国向けの伸銅品の輸出に関しては、特に大きな影響が見えていない。国内の伸銅品生産量に対して、米国向けの輸出量が小さいことから、数字上の大きな影響が見えない。ただ、一部の北米向け特殊伸銅品に関しては、輸出が減るケースと税率が上がっても需要があるため輸出量が変わらないケースの両方が見られる。

◆電 線

出荷量	5万1,300トン（銅量ベース）
前年同月比	-1%
再びマイナス。	

◆輸 出

電気銅	-9.9%	5万3,510 t
スクラップ	-51.3%	4万254 t

◆輸 入

電気銅	+50.8%	487 t
スクラップ	+26.2%	3万1,369 t

■今後の見通し

◆自動車

7月の自動車生産が-7.8%。8月国内販売台数が前年比-10.6%。販売台数では、季節性による回復に期待。ただし、8月の大幅減の影響で、9月も前年同月比ではマイナス継続の見通し。生産台数では、米国向けの反動から持ち直しの可能性あり。前月（7月）に比べてプラス転換する可能性に期待。

◆伸銅品生産

2025年7月の伸銅品生産動向（速報値）によれば、5万8,750トン、前年同月比1.3%増加した。2か月連続のプラスとなった。また、2025年に入ってからのもっとも多い生産量となった。上期最後の月（9月）は、上期末～下期始の移行期であり、上期の回復傾向延長が見られる。

◆電 線

出荷量は5万1,300トン（銅量ベース）で前年同月比-1%。再びマイナスを予測。

■スクラップ景況予想

9月の銅スクラップ需給は、供給余剰が維持されつつも、市場の緊張感が強まり、価格変動の可能性を伴う安定状態。

■LME・為替予想

LME予想：やや弱い

需給の過剰構造や政策転換を警戒。季節的・テクニカル分析では、9月以降は反落のリスクが提示されている。これらを踏まえた今月の銅価格は、9,500-1万500ドル（セツル）との予想。

為替予想：146円～148円

米国の経済指標や日米の金融政策の動向を背景に、146円から148円の範囲で推移する可能性が高いと予想。

銅建値に関しては、144万-159万円と予測

（「8月の銅の概況及び9月の見通し」おわり）

アルミニウム屑・銅・真鍮・ステンレス
各種非鉄金属屑

株式会社 原田 商店

代表取締役 原田 靖章
〒547-0002 大阪市平野区加美東6-14-30
TEL 06-6793-8128 FAX 06-6793-8128